

## 後立山（唐松～五竜）山行記

昭和57年法卒 曾我部信也

9月23日（日）、24（月）に後立山連峰の唐松岳・五竜岳を巡ってきました。一昨年の白馬三山縦走に続いての後立山連峰再訪です。

早朝から、八方尾根スキー場のゴンドラ・アダムからリフトを乗り継いで、一気に標高1830m地点へ到達。

ただし、初秋の白馬人気は予想以上で、ゴンドラ始動6時30分のこの日、6時40分頃にはゴンドラ駅に着いたのですが、すでに数百人の行列で搭乗までに約45分かかりました。コンビニで搭乗券（引換券）を事前購入できるそうなので、ハイ・シーズンに行かれる方は、ご一考ください。最上部まで片道1550円は、お値打ちです。



↑ 登山ルートからの八方池



↑ 不帰ノ嶮

歩き始めてから八方池辺りまでは、完全なハイキングルートで問題なし。晴れていれば、白馬三山や不帰キレットの豪快な風景が目前に迫ります。唐松岳頂上小屋までの八方尾根ルートも危険箇所は特になく、年配の女性グループや小学生同伴の家族も多く登っていました。小屋付近の稜線にザックを置いたので、唐松岳まで楽々一息でピストンできました。

唐松岳頂上は、近くは白馬三山、劔・立山連峰、五竜・鹿島槍から、はるか槍・穂高連峰まで見渡せる絶景ポイントです。



ㄎ 唐松岳山頂（バックは劔岳）



↑ 鹿島槍ヶ岳～五竜岳（唐松岳山頂から）

要注意なのは、唐松岳頂上小屋から五竜山荘までの行程です。頂上小屋を過ぎるとすぐに岩場の連続で、3か所の鎖場（それぞれ数十メートル程度）があり、特に最初の鎖場は、高低差もあり慎重に進まないと危険。同じ日この「牛首」と言われる辺りで転倒した人が頭を負傷し、出血多量のためヘリで搬送されたそうです。

同伴者が膝の痛みを訴えたため、15時過ぎにたどり着いた五竜山荘は超満員で、狭いシングル敷布団1枚に2人が割り当てられ、寝返りも難しいすし詰め状態でした。デリケートな私はほとんど寝られず、横になってひたすら我慢するのみ。

翌朝は完全に睡眠不足でしたが、混雑を避けるため奮起して朝食前の4時30分ヘッドランプを灯して単独で出発しました。頂上の手前に短い鎖場が2箇所ありましたが、危険は感じません。前後に誰も人のいない暗がりの中、慎重に進んだのですが、1時間足らずで頂上に到達。おかげで、雲海からの御来光や劔岳の尾根に映る五竜岳のシルエットを見ることができました。



↑ 五竜岳山頂・日の出



↑ 劔岳の北尾根に映る五竜岳の影



↑ 鹿島槍の稜線越し遥かに「槍・穂高」が！

下山ルートは、遠見尾根です。下り初めて、すぐに岩場もありましたが、危険というほどではありません。絶景ポイントが何度かありましたが、途中ガスで見通しが悪かったのは残念でした。



← 遠見尾根からの五竜・鹿島槍



紅葉は次週が見頃？ →

標高1530mのアルプス平に着いたのは、五竜山荘を出発してから3時間半後でした。

ここから、テレキャビンに搭乗して白馬五竜スキー場に楽々下山、料金千円也。初日に宿泊したケーズハウス白馬アルプスは徒歩10分の距離なので、シャワー・着替え・荷物整理をさせてもらいました。トレーニングで体調を整えた上、結構楽な行程のはずでしたが、やっぱり太腿とふくらはぎはパンパンでした。

ここで、全RUWV・OBの皆様にご案内。ニュージーランド風快適格安宿バックパッカーズ・ホステルと謳う『ケーズハウス白馬アルプス』は、ツイン2人利用で素泊まり1人4800円。非常に感じの良い若夫婦が経営しており、1階の広いリビング、冷蔵庫・電子レンジ・トースター・湯沸かしポットが揃ったキッチンが、自由に利用できます。室内にユニットバス・トイレがあり、別に共同のシャワー室・ウォシュレット付きトイレもあります。食料を事前に用意して行けば、コスパは最高でしょう。

車で10分ほど離れたゴンドラ駅へ送ってもらったほか、下山後も施設を使わせてくれました(もちろん無料で)。白馬方面で安価に登山・スキーやレジャーを楽しみたい皆様に、是非ご利用をおすすめします！



↑ ケーズハウス白馬アルプス外観



↑ 館内リビング・ダイニング

〒399-9211 長野県安曇郡白馬村神城22201-36

☎0261-75-4445

E-MAIL [hakuba@kshouse.jp](mailto:hakuba@kshouse.jp)